|  |
| --- |
| ここに示している様式は一例であり、より重点化したり、より端的に記載したりすることも考えられます。目標に照らして観点別の評価を行う上で必要な要素が盛り込まれていれば、語順や記載の仕方等は必ずしも例示の通りである必要はありません。 |

第〇学年理科　学習指導案

【理科学習指導案様式】　　単元の内容や時間のまとまりを見通して、授業をデザインします。

指導者　　＊＊　＊＊

１　単元名　　　＊＊＊＊＊＊

**中学校・高等学校：文末は「～こと」**

1. は知識及び技能
2. は思考力、判断力、表現力等
3. は学びに向かう力、人間性等を示します。

**小学校：一文で示します。**

(1)～(3)と分けずに一文で示し、(1)～(3)

の内容を入れます。

※詳細は国研の資料を参照してください。

２　本単元の目標

（１）＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

（２）＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

（３）＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

３　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ・＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊ | ・＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊ | ・＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊  本単元（題材）の目標を基に、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」（国立教育政策研究所）を参考に作成します。 |

４　単元について

(1)～(3)と項立てしないで、段落ごとに書いてもかまいません。

（１）教材観

単元のねらいと他学年との関連を入れて、単元構想の意図について記述します。

（２）児童生徒観

本単元につながるこれまでの学び、県学力診断のためのテストの結果やレディネステストなどの実態調査（できるだけ数値化したもの）から、本単元における児童生徒の身に付けたい資質・能力などを記述します。

小学校は児童、中学校・高等学校は生徒で全て統一してください。

（３）指導観

児童生徒観に書かれた課題を受け、単元のねらいに迫るための指導上の手立てを記述します（カリキュラム・マネジメントを意識した手立てなども入れていけると、なおよいでしょう）。

５　単元の指導計画（５時間扱い）　　　　　　**○は指導に生かす評価場面、◎は記録に残す評価場面**

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 次 | 時 | 学習内容・活動 | 知 | 思 | 態 | 評価及び評価方法等 |
| １ | １  ２ | |  | | --- | | 問題（課題） |   ・＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊  **小学校は問題（学習問題）**  **中学校・高等学校は課題**  育成したい資質・能力や主体的・対話的で深い学びに関わる**主な活動**を入れます。**（※１）**  観点別の学習状況についての評価は、毎回の授業ではなく単元や題材など**内容や時間のまとまりごと**に、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、評価する場面を精選することが重要です。  まとめ（結論） | ○ |  | ○  ○指導に生かす評価場面は、単元の評価規準を（１時間ごとや）まとまりに落とし込み、何について見取るのかを具体で表すと共に、Ｃと判断される児童生徒についての手立てを示します。 | 知：（◎記録に残す評価場面までにこの段階では何を理解しているとよいのか）について見取り、理解していない児童生徒には（理解できる様にするための手立て）を講じる｡　　【ワークシート、観察】  態：（学習活動に）向かっていない児  童生徒を見取り、(活動に向かうための手立て）などの指導を行う。  【観察】 |

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| ２ | ３ | |  | | --- | | 問題（課題） |   ・＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊   |  | | --- | | まとめ（結論） | | 〇 |  |  | 知：（◎記録に残す評価場面までに、この段階では何が身に付いているとよいのか）について見取り、身に付いていない児童生徒には（身に付くための手立て）を講じる｡  【ワークシート、行動観察】 |
| ４  本時 | **目標：＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊**  本時の目標をゴシック体・太字で記述します。  １　＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊   |  | | --- | | 問題（課題） |   ２　＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊  その時間に育成する資質・能力を達成するための問題（課題）を設定します。  ・＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊  ３　＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊  ・＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊  ・＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊  正対します。  ４　＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊   |  | | --- | | まとめ（結論） |   ５　＊＊＊＊＊＊＊＊＊  ・＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊ | 矢印の整合性を意識してください。  ◎  まとめ（結論）が評価に結びつくようにします。 | ○ |  | まとめと振り返りは違いますので注意しましょう。  思：（◎記録に残す評価場面までに、この段階では思考・判断・表現しているとよいのか）について見取り、できていない児童生徒には（できるようにするための手立て）を講じる｡　　【ワークシート】  観察・実験等で安全上の留意点は入れてください。  ・～する。  ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた手立てが入るといいですね。  ・ICTを効果的に活用する手立てが入るといいですね。  ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の往還を目指した手立てが入るといいですね。  知：～している。  【ワークシート、小テスト】 |
| ３ | ５ | |  | | --- | | 問題（課題） |   ・＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊  ＊＊＊＊＊＊＊＊＊  単元（題材）の最後なので、本時のまとめとともに、単元（題材）を通して何を学んだか、児童生徒が振り返る時間を設けます。   |  | | --- | | まとめ（結論）  振り返り | |  | ◎ | ◎ | 思：～している。【ワークシート】  態：～しようとしている。  【ワークシート、活動の様子】  記録に残す評価（◎）で終わらない場合もあり、次の単元につなぐ時もあります。 |

本時には、指導上の留意点を記述します。**（※２）**

**※１**　指導計画は、単元のまとまりを見通し作成します。したがって、学習内容・活動の欄には、その時間に育成したい資質・能力や主体的・対話的で深い学びに関わる主な活動を入れます。

**本時がある場合、軽重を意識して作成してください。本時は強調して記述し、本時以外は、問題（課題）とまとめ（結論）、主な活動、評価規準のみ（〇の時は手立てを入れてください）でよいです。**

**※２**　授業公開等を行う場合は、「本時」について、学習内容・活動を詳しく示したり、評価及び評価方法等の欄に配慮事項を加えたりするとよいでしょう。